

方剂名	効能	生薬組成	
		主治および証	病機 方意
<b>補益剤 補陰剤 13</b>			
しっぽうびぜんたん 七宝美髯丹	滋養肝腎	何首烏 300g・茯苓・懷牛膝・当帰・枸杞子・菟絲子各 150g・ 補骨脂（胡麻仁と炒す） 120g 細末を蜜丸にし、朝、晩 10g ずつ服用する。	
医方集解	<p>&lt;主治&gt; 肝腎精血不足 髭や毛髪<small>の早期白髪化、歯の動揺、夢精、滑精、腰や膝がだるく無力</small>など。</p> <p>&lt;病機&gt; 肝腎精血不足による早期老化である。 髪は血の余であり、肝は血を蔵するので、肝血が不足すると<small>髭や毛髪が栄養されないために早期に白変したり脱落し易くなる</small>。歯は骨の余で、腎は骨を主り髓を生じるので、腎精が不足すると<small>歯が動揺する</small>。夢精、遺精は腎関不固と肝の疏泄失調によって生じ、<small>腰や膝がだるく無力</small>は肝腎不足を表わす。</p> <p>&lt;方意&gt; 滋腎填精、補肝養血する。 主薬は<small>何首烏</small>で用量も多く、益精補血により肝腎を平補する。補肝腎の<small>枸杞子・菟絲子・胡麻仁</small>は<small>何首烏</small>を補助し、填精補腎、固渋止遺、養肝補血を強める。<small>懷牛膝</small>は滋補肝腎、強筋骨により腰膝を強化する。温腎補陽の<small>補骨脂</small>を一味加えるのは、「陰中に陽を求む」で、陽気を補助することにより滋陰補血を促進するためである。健脾利水の<small>茯苓</small>は、脾運を補助すると共に、滋陰薬の膩滯を防止する。</p>		